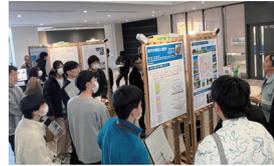


[CONTENTS]

 ピックアップ! 1面 2024年度後期 活動報告 1~5面 学生団体活動紹介 6面
 成果発表会出展一覧 7面 その他情報 8面
PICK
UP!

後期成果発表会開催

令和7年1月16日(木)に、後期成果発表会を開催しました。後期はポスターセッションによる発表形式で、各ゼミや学生団体など17団体がその取組みの成果を報告しました。発表ポスターは1月31日(金)まで展示し、多くの方にご覧いただきました。前年に引き続き、Webへのポスター掲載も行いました。参加者からは「私たちのような学生が地域の活動に積極的に参加していくことが、地域の活性化につながる重要なステップであると感じました」「さまざまな活動内容について実際に質問しながら聞くことが出来たのでよかった」「これからの大学の良さを地域に伝えていければ良いと思う」などの声が寄せられました。(一覧は7Pへ)



2024年度後期 活動報告

古写真カラー化で まちの記憶を鮮明に

小林教養ゼミⅡ

小林教養ゼミは、小杉駅地下道、小杉旧町、用水の滝、お茶の藤岡園、鬼沢池、FM いみず、千成商店街、兜山公園などを訪問・見学して地元への理解を深めました。

また、小杉まちづくり協議会とのコラボ企画として「古写真カラー化イベント」を行いました。古写真とは、今では無くなってしまった建物や生活など当時の景観が収められた写真のことで、貴重な学術資料として評価されるものもあります。古写真のカラー化にはAIを活用した市販のソフトを使い、色付けが不十分な箇所はゼミ生が聞き取りなどをもとに手作業で着色しました。



11月9日の古写真カラー化イベント当日にはKNB TVの取材があり、11月15日の夕方のニュースで活動の様子が紹介されました。

黒河の地名と伝統文化について

福原教養ゼミⅡ

福原ゼミでは、黒河の地名や歴史、伝統文化について研究を行っています。後期は、黒河の小学を訪れ、地形や歴史的背景を調査しました。現地では、地名の由来を考察し、地域の成り立ちについて理解を深めました。また、黒河夜高祭にも参加し、地域の人々と交流しながら、祭りの意義や歴史を学びました。この祭りは、地域の結びつきを象徴する重要な行事です。ゼミでは、こうした地名や伝統文化を通じて、地域の歴史や暮らしを記録し、発信することを目指しています。今後も調査を続け、地域の魅力を伝える取り組みを進めていく予定です。



スポーツチーム × 県立大生

富山グラウジーズ × マイナビ

2月25日26日に行われたBリーグの試合でハーフタイムを盛り上げる催しを企画し実施しました。



アランマーレ富山 × 射水市役所

「オレンジキャンペーン in 射水～がんばる女性をみんなで応援～」にあわせて3月8日のHリーグの試合でメッセージ企画をブース出展しました。



キャリア教育「自分の未来像」/ 科学の楽しさを伝えよう

リ・碓井教養ゼミⅡ

リ・碓井教養ゼミでは、10月17日(木)、富山市立藤ノ木小学校の小学6年生を対象に「自分の未来像」について考える活動を行いました。大学生が自身のキャリアや夢についてプレゼンテーションを行い、小学生は将来の選択肢を広げるきっかけになりました。大学生自身も小学生への発表を通じて、自分の進路や夢を再確認する機会になりました。また、11月7日(木)には、学童保育施設「結の家藤ノ木」「結の家あきよし」で科学の楽しさを伝えようと糸電話、ホログラム作り、炭酸マグマ実験、スーパーボール作りなど、様々な実験を企画し実施しました。講座に参加した小学生たちは、楽しい時間を過ごしました。大学生たちは世代を超えた交流に自信を深め、異なる世代に知識を伝えることの難しさも学びました。



ラジオ音楽番組の協働制作

井戸教養ゼミⅡ

井戸ゼミでは、地域に密着した情報や災害時の災害状況などを伝えるコミュニティラジオの役割を学ぶとともに、コミュニケーション力を向上させることを目的に、エフエムいみずと協働したラジオの音楽番組制作を、平成26年度より継続しています。今期は、移設して新しくなったスタジオ見学を11月に行いました。新しい現場で、編集作業を体験し、社長から講話を聞きました。昨年1月に発生した能登半島地震での柴田社長の対応が学生の印象に残ったようです。番組の方は、グループごとに企画・制作準備を進めた後、12月に収録を行い、年末に放送されました。パーソナリティの体験を通して、コミュニケーションに大切な要素である表現や伝える技術などを学べたことに加え、仲間や地域の方と協働した成果としての番組が放送されたことで大きな達成感を得られた機会となりました。



とやまの水の文化と技術

金城トピックゼミⅡ

金城トピックゼミⅡでは『とやまの水の文化と技術』について調査を行い、宇奈月温泉やダムなど様々なことを調べました。富山の水がおいしいのはいくつもの扇状地と急流河川があり、適度なミネラル分や硬度がおいしくなる成分条件を満たしているためであることが分かりました。加えて多くの貯水池があることも富山の水がおいしい要因でした。また実際に宇奈月温泉街に赴き食べ歩きを行い、食べ歩きクーポンを使って「やまや」ではおせんべいともろみまんじゅうを、「やまとや」では豆乳と、各店舗で特有の商品と交換しました。その後も宇奈月の水辺にある新柳河原発電所や山彦橋、宇奈月公園を見て回りました。学生たちにとって『とやまの水の文化と技術』を肌で感じ、より深く知る経験になりました。



起業を目指して！アントレプレナーへの第一歩～県大生が喜ぶものを～

清水教養ゼミⅡ

清水教養ゼミⅡでは、アントレプレナーとしての第一歩を踏み出すことを目的に、3チームに分かれてアクションプランの企画・実施に取り組みました。前期で(株)北陸博報堂、コーセル(株)との協働で得た経験を活かし、「ターゲット」「ポジショニング」「アクションプラン」に焦点を当てながら、県大生が喜ぶもの、その創出を目指しました。「便利サイト」「教科書貸し出し」「起業資金を得るための投資法」の3つの切り口で進めました。

活動期間は10月から12月までの11週間、発表会までの持ち時間と戦いながら各グループは課題と現状の把握、仮説立て、課題解決策の検討をゼロから行い、アクションプランを実施しました。実証実験を通じて、各グループは問題点や改善点を発見し、それを踏まえてアクションプランを再検討するというまさにPDCAサイクルを回す貴重な時間となりました。



クリスマスマーケット in TOYAMA を開催して 金城教養ゼミⅡ

金城教養ゼミⅡでは今年で開催3回目となる『クリスマスマーケット in TOYAMA』を開催しました。後期では装飾とアヒル釣りのルールを考え、土人形作りの体験を行いました。



アヒル釣りは他のゼミと協力して声掛けや釣り竿のサイズを2つ用意するなどの工夫を凝らしたことで集客率が上がり、記録更新を狙ったお客さんのやる気も向上しました。クリスマスマーケットを終えて、「とても寒かったがそれよりも友達と楽しく商品を販売できてとてもいい体験ができた。」「子供から大人まで、多くの人を楽しめるクリスマスマーケットになったと思う。この経験をこれから生かしていきたい。」との感想があり多くの人と交流した学生にとって貴重な経験となりました。

小矢部市の山間部における大気環境観測 2024 渡辺専門ゼミ

新型コロナウイルスによる中国のロックダウンの影響により2020年から2021年の小矢部市の大気汚染が改善しました。しかしながら、経済活動の再開により再び元の状態に戻ると予想されることや長期的な大気環境の変化を評価するため、渡辺専門ゼミでは小矢部市教育センター（旧岩尾滝小学校）の理科室に観測機器を設置し、粒径別エアロゾル粒子個数濃度と二酸化硫黄濃度を測定しました。

測定結果としては、2020年に比べて2022年以降、微小エアロゾル粒子の濃度は増加していましたが、2024年は大幅な増加はみられませんでした。しかしながら、2024年春季は黄砂の影響を大きく受け、粗大粒子個数濃度が上昇し、立山連峰が見えない日が比較的多くありました。また、二酸化硫黄濃度が急増する現象がしばしば観測され、原因として人為起源由来や火山活動による影響と推測しています。



SDGs 達成に向けて 中村秀専門ゼミ

中村（秀）専門ゼミでは、「安心して暮らせる富山」を目指し、SDGs（持続可能でより良い世界を目指す国際目標）を基盤にした地域の持続可能な発展に向けた学習を行いました。今回はSDGsの達成を目的としたローカルプラットフォーム「PECとやま」、そして南砺市内の活動団体と協働しました。



学生たちは一人一人の問いを探求し、最終的に南砺市井波地域の空き家問題、庄川の洪水対策の課題、能登半島での地震を踏まえた地震災害リスク低減に焦点を当てました。この活動を通じて、富山県の持続可能な社会に向けた具体的な提案を行うことや、SDGsの達成に向けた推進活動を他の地域にも広める必要があることを学びました。

地域協働研究会 COCOS とは

COCOSとは2014年4月に県立大が設置した学生団体です。COCOSの名前の由来はCOC(Center Of Community:「地(知)の拠点」※)とOS(Operating System:基盤)で、大学が進める地域協働の学生の主体として活動しています。地域の課題解決、魅力の発見、PRを行うため、地域の方々と対話や交流を重ねながら一緒に活動し、一緒に地域を盛り上げようとしています。

学内では、成果発表会の運営や地域協働の授業や取り組みを支援するCOCTA(Teaching Assistant)も担っています。

※2013年から本学が採択された文部科学省による「地(知)の拠点整備事業=COC事業」より



言語学習支援ボランティア（児童英語教室の実施） 山崎教養ゼミⅡ

「英語の音を楽しむ」ことを基本的なテーマとして掲げる山崎ゼミでは、「地域のために何ができるのか？」という疑問から太閤山児童館との協働で、「言語学習支援ボランティア」を実施し、小学校で実施されている英語教育への「橋渡し」となれるように尽力しました。

今回のプロジェクトでは、2024年6月と12月に合計2回、児童英語教室を実施しました。そこでは、児童の皆さんが、英語を使いながら、ビンゴやカルタ、数字を使ったゲーム、すごろくやフルーツバスケットなどを楽しみました。さまざまな活動を通じて、日本語の音声との違いも意識しながら



英語を発音して、英語の「音声」をしっかりと学習することができたのではないかと思います。ゼミ生からは「児童英語教室を実施してとてもよかった。自分たちも勉強になった」という意見が寄せられました。

「言語学習支援ボランティア」が、児童の皆さんにとって英語の「音」にふれ、日本語の音との違いなどを理解しながら、英語を習得するひとつの機会になることを期待しています。

ドローン活用のプログラミング教育 岩井専門ゼミ

岩井ゼミでは、射水市内の小学校を対象にドローンを活用したプログラミング教育を行い、大規模校でも実施できるよう取り組みました。指導者が少なくても、ドローンの飛行ルールやバッテリー交換・Wi-Fi接続、プログラミングの手順を効果的に教えられるよう、教材の作成と説明の強化を進めました。その結果、子どもたちのアンケートからも効果が確認され、大規模校でも問題なく実施できることがわかりました。今後は教材を改良し、大学生が継続的にサポートできる体制を整えるとともに、小学校の先生方の知識・技術習得を支援していく予定です。



呉羽丘陵地区の散策者を情報機器によって深掘りする試み 中田プレゼンテーション演習



中田プレゼンテーション演習では、富山市のNPO法人「きんたろう倶楽部」と連携し、呉羽丘陵地区の魅力を生かすためのソフトウェアやハードウェアを作成することを試んでいます。今年度は、呉羽丘陵の散策路を歩く「月いちウォーク」の参加者の情報の分析を行いました。参加者は、頭や腰に取り付けられたセンサによって運動状態が記録され、得られたデータから、運動による参加者の消費カロリーの算出や、転倒の原因となる危険な場所の特定などを行いました。今後は、より高精度なデータの取得および分析を進め、月いちウォークをはじめとする呉羽丘陵地区の魅力発信に貢献することを計画しています。

アランマーレ富山とひまわり迷路作戦 ひまわりサークル

コロナ禍の影響で、ひまわりサークルの地域での認知度が低下してしまい、今後どのようにひまわり迷路を地域と共に継続・発展させていくかが課題となっています。認知度を向上させ、これらを解決するためにこれまでも連携していたアランマーレ富山と協力してクイズ形式のひまわり迷路を作成しました。今回は前年度までの意見を参考にして迷路の難易度をあげたり子供向けの景品を用意したりしました。

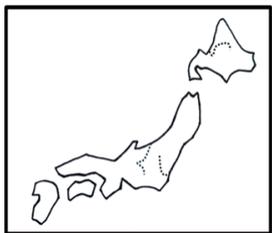
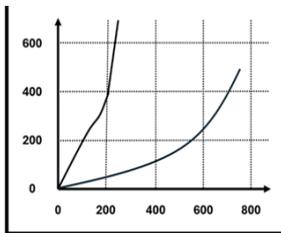
実施した結果として約700人が挑戦し、新聞社などの報道機関からの取材やInstagramのフォロワー数が約200増加するなど地域から多くの反響を得ました。今後はひまわりの開花対策やアランマーレ富山との連携を強化し、SNSなどを活用して地域に活動を広め、新しい試みにも挑戦していく予定です。



視覚障がい者に科学の楽しさを伝える体験教室の開催

本吉専門ゼミ

富山・石川両県の視覚障がい者に向けた科学体験教室「科学へジャンプ in 北陸 2024」を開催しました。視覚障がい者教育のスペシャリストによる「浮くかな？沈むかな？」では実際に物体が浮くのか沈むのか（水だけでなく空気中も！）生徒がその原理を考えながら現象を手で確かめて盛り上がっていました。「動物の秘密を探ろう！」では富山の山に生息する動物の毛や足跡、排泄物（模型）に触れたりすることで動物の体の大きさがなんとなくわかることなど、視覚以外の感覚で感じる可能性



をあらためて感じました。「生成 AI と仲良くなろう」では、コンピュータに向かって自身で考えた質問を投げかけたときの回答の賢さや意外さを感じながら、コンピュータとの触れあい方を学んでいました。「しゃべる触地図で地理を学ぼう」では、世界地図上に置いた指先位置から国名などを教えてくれる触地図を体験し、国の形や位置関係を学んでいました。

持続可能な社会に向けて

中村秀卒業研究

中村（秀）研究室では、今年度、富山県の持続可能な発展に向けた若者の視点からのアプローチを探り、地域の課題解決に貢献することを目指して卒業研究を行いました。

震災データを活用した防災意識向上とレジリエンス指標の開発、若者・女性の地方流出と社会的生きづらさの関連分析、異世代ホームシェア事業の可能性と少子高齢化社会への提案の3つのテーマです。これらの研究を通じて、SDGsの各目標に関連する具体的な施策を地域レベルで提案する重要性を感じ、持続可能な社会づくりに向けた一歩を踏み出すための知見を深めました。



起業について知って見るイベント「What is 起業」

Engine

富山県の起業数は全国的に低い傾向にあり、特に地方の学生は起業との接点や具体的な情報が不足しています。そこで Engine では、学生たちに起業を身近に感じてもらうためのイベントを開催しました。当日は県立大学内外から起業経験をしている登壇者らを招いて、パネルディスカッションや交流会を行い、議論の中で学生の挑戦意識が促進されました。特に、起業はあくまで「手段」であること、興味が少しでもあればまずは飛び込むことが印象に残ったという参加者が多く見られました。今回のイベントを通じて、経験者からの話を聞くことは挑戦のきっかけとして有効であると分かりました。さらなる地域活性化に繋げていくために、今後も同様のイベントを企画する予定です。



学生団体 POLYGON 地域協働活動報告

POLYGON

POLYGON は、企業や行政と協働し、専門的な知識や技術を習得することで、高度なデジタル人材の育成を目指す学生団体です。

今年度後期は、主に4つの活動を行いました。まず、県大祭で、ARや黑板アート、センサ技術を活用したフォトスポットを制作しました。次に、富山情報ビジネス専門学校と、VRシステム「CAVE」を用いたコンテンツ制作を行い、今も継続して取り組んでいます。また、アイデアソンへ参加し、県内企業とともに「未来予想×企業の強み×テクノロジー」で新たな事業アイデアを考案しました。さらに、若者向けのWebアプリ開発を目指す「TOYAMA-MIRAI ハッカソン」にも挑戦しました。

POLYGON は、これらの活動を通じて技術を学ぶだけでなく、実践的な経験を積むことを大切にしています。





COCOS 活動報告

いみず学生アイデアコンテスト

射水市では、学生から地域課題を解決するアイデアを募集する「いみず学生アイデアコンテスト」を開催しています。COCOSは、海王丸パークの休憩所「緑のパーゴラ」の利用促進をテーマに6月の審査会で発表し、優秀賞に選ばれた提案をもとに実証実験を行いました。実証実験では、9月15日(日)、9月16日(月・祝)に開催された「秋のファミリーフェスティバル in 海王丸パーク 2024」と同時開催で、地域の保育園児の手形によるおさかなの階段アートや、キッズスペースの設置、プロジェクションマッピング、クイズラリーを実施しました。来訪者の滞在時間の短さが課題となっている海王丸パークや緑のパーゴラの滞在満足度・知名度を高めるとともに、地域の方と交流する機会となりました。年度末の成果報告会では、実証実験やアンケート結果などを踏まえ、緑のパーゴラを利用したイベントの開催や階段アートとキッズスペースの継続的な設置を提案しました。



いぬまんま・富山短期大学クリスマスイベント

いぬまんまとは、11月10日(日)に歌の森公園で行われたイベントで、人と動物が共存し、多様な過ごし方をする公園本来の楽しみ方を伝えることを目的としています。そして、富山短期大学クリスマスイベントとは、NPO法人リボン from とやま主催、富山短期大学幼児教育学科2年共催のもと、12月22日(日)に富山短期大学で行われた「子ども子育て応援マルシェ」のイベントです。COCOSは、富山県立大学近くの地域の盛り上げや地域の方との交流、子供たちに楽しんでもらうことを目的に両イベントに参加し、チェキで撮影した写真を用いてキャンバスボードを自由に飾り付けすることができるブースを出展しました。いぬまんまでは、多くの方が参加し、地域の盛り上がり貢献するとともに、COCOSの認知度の上昇にも繋がりました。また、クリスマスイベントでは、普段関わることの少ない子どもたちと交流する機会となり、子どもたちの創造力や自己表現を育む支援をすることができました。



都市農村交流アンバサダー



富山県は、農家の人手不足などの解決を目指し都市農村交流事業に取り組んでいて、今年度は「若者の参加増」を目標にしています。COCOSは、9月に都市農村交流事業広報アンバサダーに任命され、県内各地での農村活動体験を通し、新しい企画や広報の提案を目指してきました。10月5日(土)に婦中町道島で電気柵の取り外し、11月3日(日)に南砺市で里芋の収穫など、10月から11月にかけて計4回の農作業体験に参加しました。実際に農村地域に行くことで、その地域の現状を身をもって体感しました。2月14日(金)の最終報告会では、新たな企画として、農家の近くにある空き家のリノベーションの提案を行いました。活動を通し、この取り組みに参加する若者の増加促進に繋げることができました。



令和6年度後期 地域協働授業成果発表会

令和7年1月16日(木)に17団体がポスターセッション形式で成果発表を行いました。本学学生、教員、地域の関係者など約130名の参加がありました。



< 出展ポスター例 >



1月16日(木) 13:10～14:40

- ① 「古写真カラー化で まちの記憶を鮮明に」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 小林一也 教授)
- ② 「黒河の地名と歴史」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 福原忠 教授)
- ③ 「起業を目指して！アントレナーシップへの第一歩 ～県大生が喜ぶものを～」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 清水義彦 准教授)
- ④ 「キャリア教育『自分の未来像』～小学6年生とコラボ～」
教養ゼミⅡ(1) (教養教育センター リオリガ 講師・碓井エリザベス 講師)
- ⑤ 「科学の楽しさを伝えよう～富山県立大学生による出張講座～」
教養ゼミⅡ(2) (教養教育センター リオリガ 講師・碓井エリザベス 講師)
- ⑥ 「ドローンを活用したプログラミング体験教室の拡充
(大規模校での実施と継続的な体験教室の実施について)」
専門ゼミ (知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ⑦ 「小矢部市の山間部における大気環境観測 2024」
専門ゼミ (環境・社会基盤工学科 渡辺幸一 教授)
- ⑧ 「安心して暮らせる『富山』：わたしたちの問いと未来へのつながり」
専門ゼミ (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ⑨ 「とやまの持続可能な発展」
卒業研究 (環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ⑩ 「アランマーレ富山とひまわり迷路作成」
ひまわりサークル
- ⑪ 「起業について知って見るイベント『What is 起業』の企画運営」
Engine
- ⑫ 「地域協働活動の報告」
学生団体 POLYGON
- ⑬ 「COCOS の活動報告」
地域協働研究会 COCOS

ポスター

- 「クリスマスマーケット in TOYAMA を開催して」
教養ゼミⅡ (教養教育センター 金城朱美 准教授)
- 「とやまの水の文化と技術」
トピックゼミⅡ (教養教育センター 金城朱美 准教授)
- 「呉羽丘陵地区の散策者を情報機器によって深掘りする試み」
プレゼンテーション演習 (情報システム工学科 中田崇行 教授)
- 「ナーシングフレンズ！年目の歩み
～地域の方々とのボランティア活動を通して～」
ナーシングフレンズ

令和6年度「新未来の地域リーダー」認定者

- ①南陽音 ②工学部 環境・社会基盤工学科 1年
③地域協働研究会 COCOS での活動
 - ①平川 千春 ②工学部 医薬品工学科 2年
③地域協働研究会 COCOS での活動
 - ①笠原 歩実 ②工学部 生物工学科 3年
③地域協働研究会 COCOS での活動
 - ①波能 央幸 ②看護学部 看護学科 4年
③令和6年度いみず学生アイデアコンテスト優秀賞
実証実験「元気の森公園を活用した20代大規模合コン」
- (①名前 ②所属・学年 ③活動テーマ ※②は認定時の情報です)

「新未来の地域リーダー」とは

本学では、学生の社会参画力や課題解決力の育成を図るため、地域課題解決力を養う活動に参加し、地域と連携の上、地域課題の解決に特に主体的に取り組んだ学生を、その学生からの申請に基づき審査のうえ、「新未来の地域リーダー」と認定しております。



地域協働スキルアップ講座

地域協働における対話・交流で役立つスキルアップのため、グラフィックレコーディング講座を開催しました。昨年に引き続き、富山短期大学の関係者を中心とするNPO「りぼん from とやま」と合同で開催しました。また大学コンソーシアム富山「学生地域リーダー塾」のプログラムでもグラフィックレコーディングが実践され、その効果を体験した各機関の学生も今回の講座に参加し、多様性の高い学びの場となりました。

講師：反中ひろのさん
(株式会社 たがやす) ※本学卒業生
第1回：10月25日 第2回：11月29日



電動モビリティ体験会

運転手不足や利用者減少などによるコミュニティバスの削減など、地域の交通手段が社会課題となっているなか、手軽な移動手段として広がりつつある電動モビリティ（キックボードなど）の体験会を実施し、利便性や安全性について体験的に学びました。
[実施日：2024年10月31日]

大学コンソーシアム富山「学生地域リーダー塾」

9月22日～23日に大学コンソーシアム富山による「学生地域リーダー塾」が開催されました。「SDGsで考える氷見の魅力・課題」をテーマに、県内の高等教育機関の学生、教職員、地域関係者などが参加しました。

COCOSメンバーは夏の合宿での訪問経験を活かし、運営を支援しました。今回から、宿泊形式が復活し、参加者同士の交流をより深めることができました。



編集後記

CBLニュース Vol.17をお読みいただき、ありがとうございました。編集を担当したCOCOSの五十嵐です。今回の編集では、AdobeのInDesignを使用し、多くの機能に触れることで貴重な経験をさせていただきました。これからもそれぞれの分野で活躍する教員や学生の姿をお伝えしていきます。私たちCOCOSも含め、本学の学生や教職員の熱意や挑戦が、地域社会にどのような影響を与えているのか、その一端でも共有できれば嬉しく思います。

公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室

<https://tpu-cbl.net>

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

射水キャンパス(中央棟1階N-103)

TEL: 0766-56-7500

E-mail: kyodo@pu-toyama.ac.jp

編集: 地域協働研究会 COCOS

発行: 令和7年3月



CBLnews
バックナンバー

